学校創立のころ

実行委員長
（同窓会会長）
宮崎　洋子

教職員、PTA、同窓会など関係各位の皆様、葵高等学校百十周年記念行事開催にあたり、ご尽力を賜りありがとうございました。無事に且つ盛大に終了できましたのは皆様のお力と感謝申し上げます。さて百十年の間にはさまざまなお話があります。二点紹介します。

〈開設当時の入学試験〉

一～四年生を同時に募集し各学年とも三日間かけ実施。科目は終身（綴り方を含む）、算術、地理、歴史、技芸、家事、図画、体育そして身体検査、かなり難しかったようです。まずは四年生（一回生）。合格発表後三年生（二回生）次いで二年生、一年生と実施され、不合格の人は下の学年の受験が可能だった。三十年前創立八十年記念誌作成にあたり、創立当時のお話しを伺おうと尋ね歩いた。本科二回生の方（当時九十四才）は入学試験について「図工は椿を写生」「算術は十問あり、そのうちの三問は四則計算」「筆硯を持参した」などと話して下さった。別の二回生の方は「従姉妹と一緒に受験したが自分の方が学年が上になり気まずかった」と。皆さんご高齢なのに記憶が鮮明でユーモアもあり楽しいインタビューをさせて頂いた。

〈制服は四年生が作成〉

創立時は木綿の和服と袴次いで着物制服。更に改良しながら本科二十回生（大正十四年入学）からセーラー服となった。それを四年生が仕立てる習わしだった。対面式で一年生は向かい合った四年生に自分の服地を渡し採寸してもらう。六月には出来上がって四年間その制服を着用して通学するのである。自分が四年生になったら一年生の服を縫うのである。上級生に対する感謝と畏敬。下級生を慈しむ気持ちが生まれ、会女のよき校風になっていたのではないかとその頃の卒業生が話しておられた。

記念誌

講師を囲んで

同窓会役員とともに

生徒会役員とともに

祝賀会（ワシントンホテル）

同窓会の方々

感謝状贈呈

編集後記

葵高校設立百十周年誠におめでとうございます。記念式典も盛大に行われ、その準備に並々ならぬご尽力をされた関係者に心からの謝意を表します。本年は戊辰、明治維新百五十年ということで数々の行事、催し、イベントが開かれるなど、大きな節目の年です。また、来年五月初日から新しい元号になり、来年三月には平成最後の卒業式、四月には入学式が行われます。時代は移り変りますが、伝統を重んじながらも新しい歴史を刻み続ける葵高校益々の発展を祈念し、節目の年を祝したいと思います。（磯貝　太）